

**一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会**  
**第8回定時社員総会議事録要旨**

日 時：2021年2月28日（日）13：00～15：30

場 所：ホテル ポストプラザ 草津（びわ湖）ケネディルーム（WEB会議システム「ZOOM」使用）

議決権のある社員総数 255名  
 総社員の議決権の数 255個  
 出席社員数 245名（委任状による出席210名を含む）  
 この議決権の総数 245個

議 題：

**I. 副理事長・理事長代行挨拶**

はじめに、今回の第8回定時社員総会は、東口理事長が体調不良のため理事長職を辞職されるとともに本学会をご退会されたため、定款第4章第14条に則り、佐々木副理事長が議長となり審議に入ることが確認された。定款第5章第21条に則り、第8回定時社員総会を開催することが宣言され、議事録署名は定款第26条に則り、千葉正博代議員および添野民江代議員にお願いすることになった。また、現在10都府県が緊急事態宣言下にあることから委任状による議事参加を主とした定時社員総会としたが、開催に関しては、一般社団法人法と本学会定款に従った開催形式を遵守したこと、いくつかの重要議案について審議をお願いすることになるため、現地参加が難しい先生方にはWEB視聴との形で議事公開対応させていただいたとの説明がされた。なお、例年どおり顧問弁護士、公認会計士が同席することが紹介され、さらに代議員の資格継続要件における連続3回欠席（委任状提出も不可）要件は、委任状の提出をもって、会場への出席と同等扱いとするとの説明がされた。

**II. 庶務報告**

1. 会員動向と年会費納入状況について

事務局より、2020年11月30日時点の会員動向および年会費納入状況について、報告された。

■2020年11月30日現在 ※宛先不明 41名含む、退会・休会除く

| 会員種別          | 2019年12月31日 | 2020年11月30日 | 増減    |
|---------------|-------------|-------------|-------|
| 名誉会長          | 2名          | 2名          | ±0名   |
| 名誉会員          | 43名         | 44名         | +1名   |
| 特別会員          | 50名         | 54名         | +4名   |
| 代議員           | 232名        | 256名        | +24名  |
| 学術評議員（代議員は除く） | 413名        | 468名        | +55名  |
| 正会員           | 21,216名     | 21,283名     | +67名  |
| 寄贈会員          | 8名          | 8名          | ±0名   |
| 総数            | 21,964名     | 22,115名     | +151名 |

■職種別

|      |        |        |        |         |         |
|------|--------|--------|--------|---------|---------|
| 医師   | 4,652名 | 管理栄養士  | 6,177名 | 言語聴覚士   | 607名    |
| 歯科医師 | 431名   | 栄養士    | 64名    | 歯科衛生士   | 116名    |
| 看護師  | 4,018名 | 臨床検査技師 | 663名   | 診療放射線技師 | 3名      |
| 准看護師 | 3名     | 理学療法士  | 444名   | その他     | 683名    |
| 薬剤師  | 4,126名 | 作業療法士  | 128名   | 合計      | 22,115名 |

■2019年分会費納入率 ※宛先不明・退会・自動退会含む

| 会員種別  | 納入者数    | 未納者数   | 納入率(2019年)    |
|-------|---------|--------|---------------|
| 代議員   | 249名    | 7名     | 97.3% (99.1%) |
| 学術評議員 | 445名    | 23名    | 95.1% (98.3%) |
| 正会員   | 19,595名 | 1,688名 | 92.1% (98.3%) |
| 総数    | 20,289名 | 1,718名 | 92.2%         |

2. 名誉会員の小澤和恵先生（2020年4月13日ご逝去）、特別会員の長谷川史郎先生（2020年9月23日ご逝去）、名誉会員の足立香代子先生（2021年2月7日ご逝去）のご逝去を受け、黙禱が捧げられた。

3. 2020年度事業報告、2021年度事業計画について（別添資料 参照）について

2020年度事業報告、2021年度事業計画が提出され、異議なく承認された。

4. その他について

佐々木副理事長・理事長代行より、東口理事長の退任に関する件について報告がされた。本学会理事会では、ご所属先での事案が本学会の定款に抵触するかの点について公正に判断するため、第三者の外部弁護士を立てて調査を依頼したことが報告された。また、調査をご担当されている中久保満昭弁護士より調査依頼の内容、調査には一定程度の時間を要することなど調査の概要について説明がされた。

### Ⅲ. 会計関連事項（別冊 会計関連資料 参照）

第35回学術集会 佐々木会長より、第35回学術集会の収支報告がされた。事務局より、2020年度貸借対照表、正味財産増減計算書、その他の財務諸表について説明がされ承認された。大野伸幸公認会計士より、独立監査人としての監査報告がされた。土岐監事より、理事会審議に先立って4名の監事で貸借対照表、正味財産増減計算書、その他の財務諸表と関係帳簿を照合し、会計帳簿書類及び財政状態について、いずれも適法かつ正確であることを確認し、理事会で承認されたことが報告された。続けて、福島財務委員長より、2021年度会計・各種委員会の予算書（案）が提出され、承認された。

### Ⅳ. 日本医学会からの学会名称変更に関するヒアリングについて

2020年7月に日本医学会より、本学会の「日本臨床栄養代謝学会」への名称変更に対して、日本病態栄養学会、日本臨床栄養学会から申し立てがあり、ヒアリングをお願いしたいとの連絡があった。8月に日本医学会とのヒアリングが実施され、9月に日本医学会と各団体理事長による会議も行われた。理事会ではこれまでの状況確認と本学会の今後の方針について協議し、日本医学会および両学会に対して、本学会の姿勢・対応は変えることなく、正当性を説明しご理解をいただくべく冷静に真摯に対応していくことを確認した。その後、日本医学会から2020年12月9日付けで、日本病態栄養学会、日本臨床栄養学会、日本臨床栄養代謝学会の各理事長宛に書面が届いた。日本医学会加盟検討委員会が開催され、同委員会より3点の提案の提示がなされた旨の内容であった。①3学会が今後、合併して活動できる方向性を目指す、②両学会が納得できる名称になるよう本学会が考え直す、③これらの方法を取れない場合には、本学会が変更された名称にふさわしいか、日本医学会への加盟について再審査の検討を検討することとなる、という3点の提案内容について、理事会にて精査を重ね、法的な観点からも専門家の意見も確認した。2021年1月25日付けで、①両学会とは協力関係を築く所存であり、②特に、名称に共通部分の多い日本臨床栄養学会とは現在も連携を進めており、日本医学会からの提案が前提とする状況はもはや存在しないと思われること、また③本学会の従前からの学術活動に即し、主要国際学会の学術領域名称と整合性を図る名称変更を行ったものであり、再審査の法的根拠はないことなどを、本学会の見解としてまとめ、回答書を送付した。以上のこれまでの理事会対応

についての報告がされ、これに対する質問や特段の異議はなかった。

## V. 各種委員会・部会 審議事項

### 【総務統括部門】

#### 総務委員会（飯島理事）

- ・事務局体制と学会運営インフラ整備の改善について

2018年より会員管理等の自主管理体制の確立を進めてきた。本年度もさらなる機能の実装を予定しているが、システムメンテナンスの点で自主管理体制では非効率な点も出てきたため、次世代の会員システムの運用を見据えて、同事業規模の他学会が利用している汎用システムを導入する将来方針案が示され、承認された。

#### 総務委員会 代議員・学術評議員選考WG（野上理事）

- ・学術評議員申請者の選考結果について
- ・理事会推薦による代議員審査申請について

代議員・学術評議員選考WGを持ち回りで開催し、新規の学術評議員候補者審査と新支部制度施行に伴う世話人資格のための学術評議員申請審査も実施し、44名を選定した。また、理事会推薦による代議員審査申請3名も含め選出された候補者案が提出され、全員異議なく承認された。

#### 規約委員会（石井理事）

- ・定款 第5条の変更について

本学会の目的に賛同して入会する者の資格記載において、NST 専門療法士受験資格と整合させるため「診療放射線技師」を含めた規定に変更することが承認された。

### 【教育・奨励部門】

#### 認定・資格制度委員会（福島理事）

- ・認定医・指導医の復活、再申請における申請区分の改定について

認定医・指導医資格の停止者、失効者の復活申請は、更新申請時に実施と規定している。COVID-19の拡大を受け2020年の個人資格更新申請は順延としたが、現行規約上は申請を受付けることができないため、更新申請時に関わらず復活申請ができる内容の改定案が承認された。なお、本年の本申請が順延された場合、認定教育施設申請も一年順送りとなる事例があったため、臨床実施修練の維持のため理事会の決議をもって審査手続きを実施されたことが補足説明された。

##### ■認定医・指導医制度規約施行細則改定

##### 第5章 認定医・指導医の復活、再申請 第15条

- ・認定医・指導医・認定歯科医の休会手続に伴う更新申請年の移行について

認定医・指導医制度、認定歯科医制度は、休会申請に基づくNST 専門療法士制度の更新延長制度を設けていないため、更新条件が満たない場合は再取得の扱いとなる。会員権に付随する資格維持が各制度で不整合な点を改善するため、認定医等の制度規約にも追加する案が提出され承認された。

##### ■認定医・指導医制度規約施行細則改定

##### 第7章 認定医の更新 第19条 第5項

- ・終身認定の指導責任者資格の付与と終身認定年齢の変更について

終身認定者も認定教育施設の指導責任者資格を有すること、終身認定を代議員定年と整合させ、満

66歳に達した後に3月31日をもって認定医・指導医資格を終了とし、4月1日から終身認定とする改定案が提出され承認された。

■認定医・指導医制度規約施行細則改定

第9章 認定医・指導医の認定証（更新）第21条

■認定歯科医制度規約改定

第7章 認定歯科医の更新 第14条 第4項

付則

- ・認定教育施設に関する「認定医」常勤定義の再確認について

2020年2月第7回定時社員総会で、「認定医の常勤」の文言を削除したことで、改めて以下の一部条文を削除した規定変更案が提出され承認された。

■栄養サポートチーム専門療法士認定規程改定

第4章 認定教育施設の認定 第16条(3)

- ・「指導者」から「指導責任者」への表記の統一について

臨床実地修練修了証明証には、本規程における「指導責任者」と規定しているため、当該規程条文（規程：第18条・第19条・第20条、施行細則：第3章記載、第3条）における「指導者」を「指導責任者」として、本認定規程および認定規程施行細則内の記載を定文脈上「認定医」と規定されている場合を除いて文言を統一する規程改定案が提出され承認された。

- ・NST 専門療法士資格更新者で不合格者への対応について

2019年資格更新申請者の不合格者より「不合格となった場合の返金制度」の確認があった。規程施行細則の手数料は「更新審査料」「更新認定料」を含むことを確認し、文言の追記案が提出され承認された。

■栄養サポートチーム専門療法士認定規程施行細則改定

第4章 NST 専門療法士の資格更新 第8条

- ・NST 専門療法士の休会手続に伴う更新申請年の移行規定の改正について

総務委員会にて本学会の休会申請に関する手続きの改正を行い、NST 専門療法士認定規程施行細則第6条(4)(5)の運用は実施しないことになった。そのための当該条文削除変更案が提出され承認された。

■栄養サポートチーム専門療法士認定規程施行細則改定

第6条(5)(6)削除

## NST 委員会（中瀬理事）

- ・2021年 NST 稼働施設認定について

NST 稼働施設認定審査結果について、以下の報告がされ承認された。また、現在1,335施設がNST 稼働施設として認定していることが報告された。

(1)新規：申請12施設…合格12施設

(2)更新：申請施設数104施設…合格99施設、不合格4施設・辞退1施設

## 学術集会実践支援委員会（犬飼理事）

- ・2023年第37回学術集会開催会期の変更について

第37回学術集会（JSPEN 2022）会期について、例年どおり2月開催とした場合の感染リスクを考慮し、かつ、第36回学術集会の7月延期に伴う時間的余裕を確保するため、パシフィコ横浜で

2022年5月31日(火)～6月1日(水)の会期へと変更とし、ハイブリッド形式で開催する変更案が提出され承認された。

■第37回日本臨床栄養代謝学会 学術集会

日 程：2022年5月31日(火)～6月1日(水) ※設営日：2022年5月30日(月)

会 場：パシフィコ横浜(ノース全館+アネックス F201～F206)

開催形式：ハイブリッド開催、演題募集：2021年9月下旬～2021年11月下旬

事前参加登録：2022年4月1日(金)開始で検討中。

■NST 専門療法士受験必須セミナー、NST 専門療法士更新必須セミナー

日 程：2022年5月31日(火)～6月2日(木) (6月2日(木)はノース1Fのみ)

・2025年第40回学術集会開催地について

2024年【第39回】は横浜での開催となるため、2025年は関西地域での開催候補地を優先し、以下の開催期間・開催地を確保したことが報告され承認された。

■開催期間・開催地(会場)

開催期間：2025年2月13日(木)～14日(金)

開催地：神戸国際会議場・神戸国際展示場・神戸ポートピアホテル

## VI. 各種委員会・部会 報告事項

### 【総務統括部門】

#### 総務委員会(飯島理事)

- ・国立国会図書館インターネット資料収集保存事業における本学会インターネット資料の収集に係る許諾について(依頼)について  
国立国会図書館関西館電子図書館課ネットワーク情報第一係より、インターネット資料収集保存事業における許諾に関する依頼が発行雑誌同様に許諾されていることを確認し承諾回答を行った。
- ・第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会ジョイントプログラムの協力依頼について  
第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 田妻 進大会長よりジョイントプログラムの協力依頼があり、承諾回答を行った。
- ・2020年度医師・歯科医師とメディカルスタッフのための栄養管理セミナー後援名義使用について  
一般社団法人日本病院会より2020年度の医師・歯科医師とメディカルスタッフのための栄養管理セミナーの後援名義使用依頼があり、理事会で内容を確認し、承諾回答を行った。
- ・JDDW 2020「メディカルスタッフプログラム」広報活動へのご協力について  
第27回日本消化器関連学会週間(JDDW 2019)で開催されたメディカルスタッフプログラムの広報活動協力を行った。引き続き、第28回日本消化器関連学会週間(JDDW 2020)において、「メディカルスタッフプログラム」への広報協力があり同様に広報支援を行った。
- ・COVID-19に対する学会提言の公開について  
2020年4月10日付で、P 009として「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の治療と予防に関する栄養学的提言」を学会ウェブサイトへ公開し、厚生労働省・日本医学会へ提出した。さらに回診が算定根拠となるNST加算に対する算定運用の要望提出を行うとともに、e-journal「学会誌JSPEN」へ「総説」として掲載した。
- ・入会、復会・再入会、休会について  
(1)入会手続きの手順変更について  
本学会入会手続きは、現行の手順では過去に入会歴のある退会者の再入会時に課題が多く、入会

手続き完了までの手順が煩雑となり、非常に時間を要していることから、適正で効率的な手順の確立のため、今後以下の改善を行う方針であることが報告された。

- ① 過去の入会会員歴についてチェックリストを設ける。
- ② 初年度年会費の入金方法をクレジットカード決済限定とする（救済策は設ける）。
- ③ 入金と同時に会員番号(ID)を発行し、課題がある場合はIDを一時失効させて調査対応する。

#### (2) 復会・再入会について

退会履歴のある方の復会・再入会に関しての手続きや判断に曖昧な点が多かったため、手続きを簡単明瞭化し、迅速な会員活動の再開が可能な運用とし、学会ウェブサイトへ掲載した。

[https://www.jspen.or.jp/wp-content/uploads/2020/10/hukukainituitenokouji\\_.pdf](https://www.jspen.or.jp/wp-content/uploads/2020/10/hukukainituitenokouji_.pdf)

また、定款施行細則第1章第5条には、「退会後再入会した場合、退会前の入会期間は会員歴に算入される。」と規定があり、これまでの手続きとの乖離もみられることから定款施行細則第5条第2項を変更した。

#### (3) 休会について

休会制度を利用した資格喪失逃れ事案の発生や、現在の休会制度は負担の多い制度であることが報告され、休会関連各種手続きを簡略化した手続きについて説明がされた。

### 総務委員会 広報 WG (吉田理事)

#### ・2020年度の広報WGの活動について

- (1) JSPEN「Newsletter」発行事業として、学会会告なども含め、会員への連絡手段として、2020年1月にJSPEN「Newsletter」創刊号を発行した。
- (2) 「JSPEN メールニュース」配信事業として、事業の最新情報を「JSPEN メールニュース」として月2回を基本配信として会員に対して一斉メール配信を行った。
- (3) 学会ウェブサイト改訂に関する事業として、学会名称の変更、支部会再編、職種別部会の各サイトの更新作業を伴い、学会ウェブサイトの継続的な改訂も行った。また、NST委員会ウェブサイトの再構築のための提言などを関係委員会と連携し実施した。

### 規約委員会・総務委員会 (石井理事・飯島理事)

#### ・定款施行細則理事選挙に関する規定の改正について

COVID-19 拡大により定時社員総会会場での役員投票手続きが困難な状況となったため、代議員の選挙権を担保のため、郵送による事前投票を実施した。このため実際の運用と定款施行細則の関連規定との整合を取るため、理事会で承認した変更規定が報告された。

#### ■定款施行細則の改定

- (選挙理事の任期) 第11条 第3項、第4項
- (推薦理事の任期) 第12条 第1項、第2項、第3項
- (監事の任期) 第13条 第2項
- (役員選任の手続) 第16条 (1) (2) (3) (4) (5)
- (選挙理事の選任) 第17条 第3項、第4項
- (推薦理事の選任) 第18条 第1項、第2項、第3項
- (選挙管理委員) 第20条 第2項

付則

#### ・監事選出規定の改定について

監事の選任は、選挙の形式とならなかったが、定款施行細則と運用上の乖離があるため、第 19 条 第 3 項、第 4 項、第 5 項、第 6 項を削除し、整合性を整えた。

- ・理事予定者会議メンバーの定義付けのための定款施行細則の変更について

郵送による理事選挙の実施と新理事長選出のための理事予定者会議の開催において、現行の定款施行細則では、理事予定者会議メンバーの定義が正確に読み取れない表現となっているため、開催運用が定款施行細則上の表記と乖離しないよう当該規定を変更した。

#### ■定款施行細則の改定

(役員選任の手続) 第 16 条 (2)、第 18 条 第 1 項

付則

#### 倫理・利益相反委員会（鷲澤理事）

- ・2020 年度の倫理審査報告について

第 36 回学術集会演題登録より、一般社団法人日本医学会連合の「研究発表に当たっての倫理ガイドラインの共通化」に従い、段階的な倫理審査を実施した。本委員会で継続審議を重ね、第 37 回学術集会の演題申込より倫理審査を受けていることを前提に演題登録する形へ順次シフトする。また研究開始の段階で施設での倫理審査を受けるよう、学会ウェブサイト等で会員啓発を行っていく。

- ・2020 年度 COI の提出について

臨床研究の利益相反 (COI) に関する共通指針および細則に基づき、該当する役員・委員会に対して COI 申告書提出を依頼した。さらに学術集会の利益相反 (COI) を海外の招待講演の先生にもお願いするべく、英語版の演題発表時のスライド作成を行った。

- ・本学会の将来的な倫理審査体制の検討について

「研究に関する倫理審査」体制について、学術団体として対応できるような準備は必要との見解があり、倫理審査を行う倫理審査委員会を倫理・利益相反委員会の実行組織として設置する方針であることが報告された。

#### 支部統括委員会（犬飼理事）

- ・支部規則と支部学術集会運営細則の制定について

2020 年 1 月 1 日の新支部制度施行に伴い、支部統括委員会・支部長・支部学術集會会長による合同会議を行い、支部規則および支部学術集会運営細則を制定し、学会ウェブサイトへ掲載した。

- ・2021 年度からの支部会体制と支部長について

2020 年度決算から各支部会の期末資産を学会本部の資産と連結した会計処理に移行した。また、2021 年度事業計画・予算申請を依頼し、各申請予算を確認し 2021 年度本学会予算案へ計上した。新支部制度では代議員と学術評議員が世話人を兼務するため、代議員・学術評議員選考 WG の協力を得て、2019～2020 年の 2 年間に限定して支部会世話人就任に伴う学術評議員申請制度を設け、理事会推薦による代議員申請制度、学術評議員申請制度を利用した支部会活動への継続的な協力をお願いした。なお第 8 回定時社員総会での承認後、2020 年 12 月 1 日に遡り委嘱状を発行し、正式な就任をお願いすることを確認した。さらに所定の世話人退任者を対象として、理事長名にてこれまでの支部会世話人会へのご尽力と学術活動の功績に対して感謝状を贈呈することになった。

- ・2021 年度支部会における支部学術集会運営委託業者の選定について

支部学術集会運営について、共通プラットフォームを構築し、年間を通した各支部会学術集会の運営を行うことを条件に、運営会社の選定のコンペティションを開催し、2021 年度の運営候補会社

を選定した。

・支部会ウェブサイトの変更について

支部会ウェブサイトについて以下の更新と変更を行ったことが報告された。

- (1) 各支部会ウェブサイトのコンテンツ変更を行い、世話人一覧に各支部会所属領域における代議員と学術評議員を掲載し、新年度の世話人会名簿を整備
- (2) 支部規則・支部学術集会運営細則の掲載
- (3) 教育研修には、各支部から申請され承認された事業を掲載
- (4) 各県情報には、学会の認める学会・地方会・研究会など、認定クレジット単位として認められている研究会やセミナー事業を支部長より依頼があった場合に掲載する

・支部運営および支部学術集会運営に関する留意事項の制定について

本学会が組織する全国支部会運営に関する留意事項を内部取扱資料としてまとめた。なお、今後の運用過程での改善点などを反映し、施行していくことが確認された。

## 【渉外部門】

### 国際委員会（小谷理事）

・ESPEN-JSPEN Virtual Meeting（2020年9月20日）の報告について

2020年9月20日 15:00～16:00（日本時間）に開催された ESPEN-JSPEN Virtual Meeting について報告がされた。

参加者：Rocco Barazzoni: ESPEN Chair、Matthias Pirlich: ESPEN General Secretary  
Željko Krznarić: ESPEN Treasurer、Luca Gianotti: ESPEN next LOC President  
東口高志: JSPEN 理事長、小谷穰治: JSPEN 理事、国際委員会委員長  
丸山道生、福島亮治、鍋谷圭宏: 各 JSPEN 理事・国際委員会委員

要約：ESPEN 理事長 Rocco Barazzoni 先生から ESPEN 2020 は COVID-19 の感染のため完全 WEB 開催としたところ、通常は 3,000 名程度の参加であるが、遠方からの参加者も可能となり 7,500 名が今回参加登録したことが報告された。特に COVID-19 と栄養に関するエビデンスを集積と COVID-19 治療における栄養管理についての発表が促された。栄養状態は COVID-19 の予後の悪化と強く関連していると推測されており、今後も JSPEN と合同での学術活動を進めていきたい。

東口理事長から ESPEN が作成した COVID-19 における栄養管理に関するステートメント（宣言）に参加させていただいたことに感謝が述べられた。日本においても JSPEN として 4月11日に、厚生労働省および日本の医療者向けに、ESPEN のステートメントを国際基準として歩調を合わせて同様の COVID-19 治療における栄養管理について JSPEN から 12 の提言として発表したことが説明された。また、JSPEN 2020 学術集会おいての COVID-19 に関する対応、JSPEN 2021 は Virtual Meeting を主体として開催すること、JSPEN 2022・2023 など今後の学術集会については、ハイブリット型での開催が主体となるなどの見解が述べられた。

・2020年国際学会の報告について

- (1) ESPEN 2020 (The 42nd ESPEN Congress 2020) : 2020年9月19日～22日の期間でリヨン（フランス）で開催予定であったが、COVID-19 対策でオンライン開催に変更して行われたことが報告された。



- (2) KSPEN 2020 : The 19th Annual Congress of KSPEN & 2020 International Symposium がオンラインにて行われたことが報告された。
- (3) PENSA Congress 2020 (The 21st PENSA Congress) : 2020 年 10 月 14 日～16 日の期間にてバンコク国際貿易展示場で開催予定であったが、2021 年 10 月 14 日～16 日の期間、同開催場所に延期になったと報告された。
- ・今後の国際学会の予定について
  - (1) ASPEN Nutrition Science & Practice Conference 2021 : 2021 年 3 月 20 日～23 日の期間にてコロラド会議場で開催予定であったが、COVID-19 対策でオンライン開催に変更して行われることが報告された。
  - (2) The 49th Congress of the International Society of Surgery (ISS/SIC) - International Surgical Week ISW 2021 - the World's Congress of Surgery (世界外科学会議) 中の“国際外科代謝栄養学会 (IASMEN)” : 2021 年 8 月 29 日～9 月 2 日の期間にて、マレーシアのクアラルンプールで開催予定であったが、2022 年 8 月 28 日～9 月 1 日年に延期されることが報告された。それに伴い 2021 年は 8 月 30 日～9 月 3 日の期間でオンライン開催されることが報告された。
  - (3) PENSA Congress 2020 (The 21st PENSA Congress) : 2021 年 10 月 14 日～16 日の期間にて、名称は PENSA Congress 2020 のままでバンコク国際貿易展示場にて開催されることが報告された。

#### 国際委員会 nutritionDay WG (小山理事)

- ・nutritionDay に関する昨年の進捗状況について
  - (1) 2019 年 11 月 7 日を nutritionDay として登録および調査が実施された。nutritionDay 全体 10,487 人中 388 人 (3.7%)、そのうち Oncology として 46 人が登録した。
  - (2) 2020 年 11 月 12 日を nutritionDay とし登録及び調査が実施された。
  - (3) ESPEN 2020 (Virtual Congress) の際に開催された nutritionDay National coordinators meeting に出席し、参加各国との交流及び情報交換を行った。2019 年度の日本からの nutritionDay 参加状況 (患者登録数) は以下の通りであった。
  - (4) 学会ウェブサイト上の nutritionDay ウェブサイトを更新し、会員へ情報発信を行った。

#### 保険委員会 (飯島理事)

- ・2020 年薬価改定 : 不採算品再算定、基礎的医薬品について
 

2020 年薬価改定に向けて、本学会より不採算品再算定に関する意見書とキット製品の重要性に関する意見書 (新規) の 2 つの意見書を提出した。一部不採算と同時適用の製剤もあったが、今回の改定で多くの水電解質輸液、アミノ酸輸液、脂肪乳剤が適応となった。これでほぼすべての水電解質輸液 (主要細胞外液補充液のほか、1 号～4 号までの輸液) が基礎的医薬品に認められた。
- ・一般用静脈栄養剤の添付文書改訂と関連する注意事項の公開について
 

3 年前より本学会の要望書として提案折衝していた案件が認められ、該当製品の添付文書が改訂された。また、厚生労働省から依頼のあった「禁忌からこれらが除外された場合の安全を担保するための医療現場に向けた学会から注意事項」についても発信した。
- ・NST 加算に係る研修要件の厚生労働省保険局見解について
 

COVID-19 拡大により、本算定要件として必要な研修の開催が全国的に滞っており、一部の研修では集合型を回避したオンライン形式での研修が取り入れられてきている。本学会事業での研修が診

療報酬で算定要件となっている「医師セミナー」と「教育施設での修練」について、厚生労働省保険局医療課に問い合わせし回答をいただいた。それを受けて、実際の学生教育が従来形式の臨地実習で運用されている現状から、当学会では医師セミナーはオンライン開催可能とする一方で、当局に説明可能な方法で従来通りの質を臨地実習以外で担保することは全修練実施施設において完全には難しく、当面 40 時間研修は従来形式による医療機関での臨地実習とすることを確認した。

・令和 4 年診療報酬改定要望について

NST 加算の見直しについて、病院規模や機能に連動した見直し項目を提出した。3 月には申請書を作成し、7 月にヒアリングを受ける予定であることを報告された。

・アナモレリン承認の件について

当学会から承認要望を提出していたがん悪液質治療薬エドルミズ錠（一般名：アナモレリン塩酸塩、申請企業：小野薬品）が厚生労働省の薬食審・医薬品第一部会で承認された。また既にメーカーでプロモーションが始まっていることを報告された。

・ニコチン酸製剤であるナイクリン注射液 20mg/50mg（トーアエイヨウ社製）販売中止について

日本臨床栄養学会の菅野理事長から本件に関する相談があった。本学会でも中止決定の経緯を確認した。原薬が無いため継続は困難との判断であったが、臨床的な見地から両学会でこの事例の担当部署である厚生労働省医政局経済課へ要望書を提出することとし、当局へも報告の上、当該薬についてはメーカーから経緯と現場での対応について再度説明を受けることになった。

## 【教育・奨励部門】

### 教育委員会（鍋谷理事）

・2020 年 NST 専門療法士受験必須セミナーについて

COVID-19 の影響により、座学開催は中止し、e-learning 形式での実施（第 1 回、第 2 回、第 3 回）や開催中止（第 4 回）に変更し、2020 年 NST 専門療法士受験必須セミナーを開催した。

・第 7・8 回 JSPEN 栄養マスターコースについて

COVID-19 の影響により、第 7・8 回 JSPEN 栄養マスターコースを中止した。今後の社会情勢を見ながら開催の可能性と方法を検討する。

・第 4 回 NST ベーシックコースについて

今後の社会情勢を見ながら第 4 回 NST ベーシックコースの開催と方法を検討する。

・職能 3 部会アドバンスコース（NST 実力向上セミナー）の開催計画について

部会独自のアドバンスコース（NST 実力向上セミナー）は、リクエストに応じて開催を予定している。今後の社会情勢を見ながら開催の可能性と方法を検討する。

### 教育委員会 LLL WG（高増理事）

・LLL ワーキンググループの活動報告について

(1) LLL ライブコースの開催の見送りについて

例年 3 月と 8 月に LLL ライブコースを開催していたが、COVID-19 拡大により集合型開催を見送った。

(2) ESPEN WEBINAR-T-LLL course について

Final Examination（最終試験）と T-LLL（講師資格の取得コース）が開催中止となり、JSPEN から T-LLL 参加応募は中止とした。2021 年 1 月 22 日には、ESPEN において WEBINAR-T-LLL course が開催されることになり、JSPEN より 10 名の希望があり、佐々木理事長代行名で推薦

状を発行した。

(3) 指導医申請条件における LLL ライブコースの代替措置について

COVID-19 拡大により、LLL ライブコースを中止した。本コースは認定医、指導医、認定歯科医の新規申請要件となるため LLL live course 4 講座以上の受講の代替として、LLL On line course も含めて 16 単位以上を取得していることを代替とすることで対応を行った。

(4) 2021 年度も LLL live course を集合型で開催することは当面困難であるため、ウェビナーでの開催を検討することが報告された。

**専門能力開発委員会 栄養士・管理栄養士部会（斎藤理事）**

・栄養士・管理栄養士部会会議について

2020 年度は以下のとおり部会を開催したことが報告された。

第 1 回：2020 年 1 月 11 日（土）オンライン開催

第 2 回：2020 年 11 月 16 日（月）オンライン開催

・栄養士・管理栄養士部会アドバンスコースの企画と開催について

2021 年 11 月開催予定として、テーマ：症例から学ぶリサーチクエストと研究法（仮題）、

目的：栄養管理の実践力向上とクリニカルクエストを発表、論文に結び付ける力を身につける（仮題）との開催概要が示され、教育委員長と相談し進めていることが報告された。

**専門能力開発委員会 薬剤師部会（二村理事）**

・2020 年度薬剤師部会の活動について

2020 年 9 月 27 日、11 月 29 日に部会を開催し、薬剤師部会パネルディスカッション、日病薬病院薬学認定薬剤師制度への対応、静脈カテーテル感染症等の輸液ルート使用に関わる実態調査について検討した。

・第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会（JSPEN 2021）における日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修単位シール交付について

COVID-19 拡大に伴う日病薬病院薬学認定薬剤師制度の特例措置に従い、WEB 開催における日病薬認定研修単位シールの交付のための運用方法について改めて薬剤師部会で検討し、現地参加者のみを対象とした配布運用とすることになった。

・カテーテル感染症などの輸液ルート使用にかかわる実態調査について

本学会会員の薬剤師を対象にカテーテル感染症、カテーテル閉塞、静脈栄養への薬剤師の関与などについて後ろ向きの調査を実施する。

**専門能力開発委員会 看護師部会（篠理事欠席のため、清水理事）**

・看護師部会の開催について

2020 年 7 月 5 日、10 月 28 日に部会を開催し、2021 年第 36 回学術集会に向けた看護師部会パネルディスカッション、『気づく・繋げる・広げる栄養看護』の第 3 弾の企画・検討を行うとともに、今後の看護師部会の取り組み状況について検討した。

**【認定・資格検討部門】**

**認定・資格制度委員会 認定医・指導医・認定歯科医制度（福島理事）**

・認定医試験結果について

2020年10月25日に施行された認定医認定試験にて、30名が合格し、認定医として認定した。

・指導医の認定について

審査を経て、申請のあった4名について指導医資格条件を満たしていることを確認し、指導医として認定した。

・2020年度 認定医・指導医 資格更新審査結果について

COVID-19の拡大により、2020年度更新を必要とする個人認定資格は全て1年延長の処置を行った。

・2020年度 指導医 終身認定移行者について

本年の対象者なし。

・2020年度 認定医 終身認定移行者について

認定医1名が2021年3月31をもって認定医期間が満了となり終身認定へ移行される。

・認定歯科医試験結果について

2020年10月25日に施行された認定歯科医認定試験について、8名が合格し認定歯科医として認定した。

**認定・資格制度委員会 専門療法士・臨床栄養代謝専門療法士制度（三原理事）**

・2020年度 NST 専門療法士認定試験結果報告について

松井敏和先生(藤田医科大学 名誉教授)のご協力で、本試験の信頼性について検討していただき、信頼係数 $\alpha$ 値は0.88と高い数値であった。COVID-19の拡大により受験申請者638名(前年より462名)のうち、受験者数は470名(前年より555名)、受験回避申請が154名であった。全受験者数の平均点は68.33点と昨年の67.34点を上回った。合否判定委員会で審議し、その結果、合格者数は405名で、合格率は86.17%となった。

・2016年認定の NST 専門療法士の認定更新について

COVID-19の拡大と緊急事態宣言を受けて、今年度の会員資格更新事業について検討した結果、個人認定資格の認定期間を5年間から6年間へ一律延長とし、また、今年の更新認定業務は中止した。

・2020年度暫定臨床栄養代謝専門療法士認定について

今年は69件の申請があり、全ての条件を満たしていることを確認し、69名を第2回暫定認定者とした。

・2020年度認定教育施設新規および更新について

更新対象25施設のうち、20施設が更新の手続きを行い、引き続き認定教育施設として認定した。新規認定教育施設は16施設あり、審査を経て認定された。

・学会の認める全国学会・地方会・研究会について

2020年度は、NST 専門療法士認定資格の更新条件の担保維持を目的として「学会の認める2単位の地方会・研究会」を対象に実態調査を行った。さらに COVID-19の拡大で研究会の開催はほぼ実施されていないことから、2単位研究会の今年の新規申請審査の受付は見送りとした。また、COVID-19の影響下において、多くの学会・研究会がオンライン開催としている現状を受け、オンライン開催とした場合の研修会の単位の取り扱いについて、所定の条件を満たす場合は認め個々の研究会からの申請を受けていることが報告された。

・2020年度認定試験ワーキンググループについて

試験問題作成担当（試験当日の試験官担当兼務）、試験問題選択担当（症例報告書の審査兼務）として活動した。

・2020年 NST 専門療法士更新必須セミナーについて

COVID-19の影響により、座学開催は中止し、e-learning形式での実施（第1回、第2回、第3回）や開催中止（第4回）に変更して開催した。

- ・2021年NST専門療法士更新必須セミナーについて  
2021年の日程と会場、講演内容にて検討していることが報告された。
- ・2021年認定試験について  
2021年10月10日（日）に国立京都国際会館で開催を予定し、認定医・認定歯科医も同日開催の予定で進めている。
- ・認定教育施設の実地修練の実施運用制度の変更について  
NST専門療法士の試験申請（書類審査含む）において、円滑な運用のために実地修練に関して認定教育施設からの実施修練実施の届出制の変更について説明がされた。

#### NST委員会（中瀬理事）

- ・2021年NST稼働施設認定審査について  
今年のNST稼働施設認定審査について以下の報告がされた。それに伴い、現在1,335施設がNST稼働施設認定登録されていることが報告された。  
(1)新規：申請12施設…合格12施設  
(2)更新：申請施設数104施設…合格99施設、不合格4施設・辞退1施設
- ・NST委員会新ウェブサイトへの移行について  
2020年12月28日をもってNST委員会ウェブサイトの本学会ウェブサイトへ一元化したことを報告された。それに伴い、NST活動のデータ収集や検索性、今後各種申請の電子化、確実性の向上を目指すことが報告された。
- ・第36回学術集会NSTフォーラムについて  
第36回学術集会からNST稼働施設認定更新時の単位取得制度が開始されることが報告された。取得方法については年次学術集会ウェブサイト上でも案内する。

#### 【学術部門】

##### 編集委員会（佐々木副理事長・理事長代行）

- ・「学会誌 JSPEN」年度別掲載状況について（2021年1月13日現在）

##### ■e-journal「学会誌 JSPEN」

| 年度   | No | 原著 | 症例報告 | 総説 | 臨床経験 | 施設報告 | 研究報告 | 地方会抄録 | 用語解説 | 学会からの報告 | 計  |
|------|----|----|------|----|------|------|------|-------|------|---------|----|
| 2019 | 1  | 18 | 14   | 0  | 2    | 3    | 2    | 30    | 3    | 3       | 75 |
| 2020 | 2  | 19 | 12   | 2  | 0    | 5    | 4    | 10    | 2    | 2       | 56 |

※2020年度はCOVID-19の影響により地方会開催が制限されたことと、第34回学術集会で座長推薦ができなかったことで抄録掲載数が減少したことを報告された。

- ・「学会誌 JSPEN」投稿状況について（2021年1月13日現在）

| 年度   | 採択 | 不採択 | 著者修正中 | 取り下げ | 査読中 | 投稿数 |
|------|----|-----|-------|------|-----|-----|
| 2019 | 52 | 11  | 2     | 15   | 2   | 82  |
| 2020 | 19 | 13  | 22    | 6    | 2   | 62  |
| 合計   | 71 | 24  | 24    | 21   | 4   | 144 |

- ・論文投稿から採択までの日数について（2021年1月13日現在）

| 年度   | 採択 | 最短<br>日数 | 最長<br>日数 | 採択までの<br>平均日数 |
|------|----|----------|----------|---------------|
| 2019 | 52 | 26       | 601      | 192           |
| 2020 | 19 | 42       | 298      | 174           |

採択決定後、6カ月以内に掲載している。

- ・「学会誌 JSPEN」J-STAGE 公開状況について（2021年1月13日現在）

Vol. 1 No. 3 2020年2月5日 公開

Vol. 1 No. 4 2020年6月15日 公開

Vol. 2 No. 1 2020年9月13日 公開

Vol. 2 No. 2 2020年11月27日 公開

Vol. 2 Sup. 1 2020年11月11日 公開

※学会 WEB サイトにて公開後6カ月が経過した学会誌から J-STAGE にて一般公開される。

※Sup. 1 は第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会抄録を収録した増刊号となる。

- ・座長推薦論文について

第34回学会学術集会にて当該演題の座長より推薦いただいた72件の推薦演題に対して、11本の論文が投稿され、8本が査読を経て採択となった。第35回学術集会は、COVID-19の影響により紙面開催となったため座長推薦論文については見送りとなった。

- ・ANNALS OF NUTRITION AND METABOLISM (ANM 誌) について

本学会の official journal として2017年10月より本学会 WEB サイトにて会員専用ページ経由で同誌の閲覧が開始されている。2020年度は COVID-19 の影響もあったが、無事に刊行された。

- ・代議員への査読者登録情報見直し依頼について

全代議員に対して登録情報の見直しを依頼し、118名の先生に登録情報の更新をいただいたが、全体における50%程度とのことで、第8回定時社員総会時に再度依頼をすることを報告された。

- ・学術評議員への査読者登録依頼について

査読依頼の間口を広げるために、全学術評議員に対して Editorial Manager への査読者登録依頼をしたところ、有志として38名の先生の新規登録があった。

- ・優秀査読委員受賞者選定について

優秀査読者賞受賞者選定に際し編集委員会にて、厳選な審査の結果、以下の通り受賞者を決定した。  
井田 智（がん研有明病院 消化器外科）、巨島 文子（諏訪赤十字病院 リハビリテーション部）、寺島 秀夫（CUC Inc.）（敬称略）

## 用語委員会（中瀬理事）

- ・用語解説論文執筆状況について

① 「学会誌 JSPEN」に掲載済：「経皮経食道胃管挿入術」（No. 2 Vol. 1）大石英人先生（用語委員）  
「3号液」（No. 2V ol. 5）杉山彰英先生（用語委員）

② 執筆が終了し査読中：「悪液質」日下部俊朗先生（用語委員）、「抗酸化物質としてのカテキン」杉山彰英先生（用語委員）、「フレイル」葛谷雅文先生（名古屋大学）※2021年2月15日採択

③ 著者執筆中：「嚥下リハビリテーション」津田豪太先生（用語委員）、「リフィーディング症候群」深柄和彦先生（東京大学）、「Lカルニチン」曹英樹先生（川崎医科大学）

- ・用語解説論文候補用語の選定方法について

用語委員会各委員からの提案により取り決めているが、現在決定済みの候補用語の執筆が完了しつつあるため、これまで候補となった用語一覧を参考に新たな候補用語を各委員より募り、またアンケートを実施して掲載候補用語の選定を行う。

- ・用語解説論文執筆者について  
用語委員会での新規事業を視野に入れ、委員外への執筆依頼を行ったことを報告された。今後委員外に執筆依頼する際は、候補用語を提案した用語委員が著者の選定から執筆、投稿までのマネジメント担当を担う形を予定する。
- ・用語解説論文共著者の記載について  
用語解説論文には共著者として用語委員全員の名前が記載されているが、オーサーシップの観点から、共著者には名前を記載せず、「用語委員会」として記載を追記する方向で検討する。
- ・用語解説論文投稿規程に関して  
「学会誌 JSPEN 論文投稿規程」には用語解説論文に対応した項目が記載されていないため、用語解説論文に関する書式を定義した内規案を作成し、編集委員会に提案することを進めている。
- ・用語委員会新規事業について  
論文作成などの際に参照し、正確な用語の表記や用法を推進することを目的として、一覧の中から用語をクリックすると当該用語が使われている学会誌にリンクする、索引のような形式の「JSPEN用語集」の作成を検討している。

#### 学術集会実践支援委員会（犬飼理事）

- ・2020年度活動報告について
  - (1) 総務委員会、規約委員会、倫理・利益相反委員会、支部統括委員会、将来構想委員会と連携し行った、本会の年次学術集会・支部学術集会に関する調査内容をベースとして、学術集会運営細則の制定と学術集会運営に関する留意事項の作成を進めている。
  - (1) 2020年度第3回定例理事会にて承認された学術集会運営細則の本学会ウェブサイトへの掲載を進めており、今後、同運営細則に沿って運営しながら、必要な内容は規定に反映する作業を進める。
  - (2) 第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会（小谷穰治会長）のコンベンション選定のための説明会を2020年10月開催し、2021年1月22日には、2023年第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会および同時開催の教育セミナーの運営条件として、運営会社を選定した。
  - (3) 学術集会でのIRBに関する周知及び教育については、倫理・利益相反委員会と連携しつつ、第36回学術集会の演題募集から倫理に関するチェック項目を新設しての演題募集を開始した。推奨される倫理審査基準に基づく演題登録体制には数年の移行教育期間を定め進めていく。

#### 学術集会実践支援委員会 記念 AWARD 選考 WG（山中理事欠席の為、佐々木副理事長・理事長代行）

- ・大柳治正記念学術振興アワード選考について  
選考委員会選考基準に従い、受賞者と1名の関連講演者を決定した。第36回学術集会において、受賞講演および関連講演を行う。  
受賞者：馬場忠雄（医療法人友仁会 友仁山崎病院、名誉会員）  
演題名：腸の病態と脂肪酸との関連を探る  
関連講師：佐々木雅也（滋賀医科大学医学部看護学科基礎看護学講座、副理事長・理事長代行）  
演題名：食物繊維の生理作用と栄養療法における位置付け
- ・小越章平記念 Best Paper in The Year 選考委員会 2020年選考結果について  
選考委員会選考基準に従い、下記の受賞論文を決定した。第36回学術集会の受賞者記念講演において、発表いただく予定である。

受賞者：小林 実（東北大学病院 総合外科）

掲載誌：International Journal of Clinical Oncology 25: 1814-1821, 2020

論文タイトル：Protective effect of the oral administration of cystine and theanine on oxaliplatin-induced peripheral neuropathy: a pilot randomized trial

#### 学術集会実践支援委員会 学術 AWARD 選考 WG（鈴木理事）

- ・ JSPEN YOUNG DOCTORS AWARD 2021 の選考について  
2020年9月1日～9月30日（消印有効）として応募したが、本年の応募申請はなかった。
- ・ YOUNG INVESTIGATOR AWARD 2021 の選考について  
2020年9月1日～9月30日（消印有効）として応募した。1名の応募があったが、過去に受賞歴のある方であったため、申請資格の点で今回は、受賞者対象者はなしとなった。
- ・ JSPEN スカラーシップ賞 2020 受賞者について  
2020年9月1日～9月30日までの募集期間において1名からの応募があり、選考に際し学術 AWARD 選考 WG を開催し、審査し本賞の受賞を決定したことを報告された。  
受賞者：田中明紀子（和歌山県立医科大学附属病院 病態栄養治療部）  
研究課題：肥満患者における減量過程による味覚変化に対する前向きコホート研究

#### 学術集会実践支援委員会 フェローシップ選考 WG（三原理事）

- ・ フェローシップ賞受賞者選定について  
第35回学術集会応募者セッションは COVID-19 の拡大により中止となり、発表予定スライドでの審議にて厳選な審査の結果、以下の1名を受賞者として選定した。  
受賞者：岸 宗佑先生（イムス札幌消化器中央総合病院 消化器内科 VAD センター長）  
演題名：内頸静脈穿刺および CV ポート手術の合併症予防のための正しい頸部解剖の理解と新たな穿刺経路の探索について  
また、第36回学術集会では演題公募に際して、本賞への応募を希望した6題から抄録にて5名を選考し、7月に移行した第36回学術集会時に判定会議を開催し、翌日の2021年度総会・学術評議員会にて最終選考者を発表することになった。
- ・ 選考規程の改定について  
フェローシップ賞 2020 の応募演題に二重発表があったことと、昨今、COVID-19 対策によりオンラインでの学会開催が多く行われていることから、副賞の使い方や金額について検討した改定選考規定が示された。

#### 【臨床栄養推進部門】

##### ガイドライン委員会（小谷理事）

- ・ GRADE および Narrative で行うテーマについて  
「術前栄養について（未確定）」、「がん survivors への栄養療法」、「Refractory（がんの治療(3rd のケモなど)に不応性の患者) への栄養療法」の3つの CQ を GRADE で行うテーマとしている。また Narrative のテーマについては、総論、外科領域、放射線領域、固形癌に対する化学療法、固形癌以外の化学療法、Advanced cancer と現在 50%程度完成しており、相互査読を行う段階にあることが報告された。



## 臨床栄養コンセンサス検討委員会 9領域 WT（犬飼理事）

### ・2020年度活動報告について

9領域の現状の活動内容について報告がされた。また出版について、株式会社医学書院 医学書籍編集部3課に依頼することで最終調整を進めている。

■出版名義は「編集 日本臨床栄養代謝学会（JSPEN）」

■書名は以下の3冊構成を予定する。

「日本臨床栄養代謝学会 JSPEN コンセンサスブック 1 がん」

「日本臨床栄養代謝学会 JSPEN コンセンサスブック 2 肺疾患／肝疾患／腎疾患」

「日本臨床栄養代謝学会 JSPEN コンセンサスブック 3 リハビリテーション／在宅／小児／  
嚥下障害／周術期・救急集中治療」

## 【JSPEN プロジェクト部門】

### P 001：REDCap プロジェクト（飯島理事）

・在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料の算定に関する EDC を用いた症例登録型データベース構築事業について

COVID-19により症例集積の遅れが発生しているが、現在プロジェクト調査協力施設として13施設、19症例がデータベースに登録と順調に増えおり、引き続き啓発をしていく。

### P 002：地域連携推進プロジェクト（犬飼理事）

・2020年度活動報告について

「在宅医療」「地域医療」をキーワードとして、学術団体としての地域連携のあり方、連携推進の実現に向けて意見交換を行った。

### P 003：誤接続防止対策プロジェクト（丸山理事）

・ISO 80369-3 のミキサー食注入に関する問題について

既存広口タイプ誤接続防止コネクタの存続に関する要望について、日本重症心身障害学会はじめとした関係学協会の連名で「経腸栄養分野での既存広口タイプ誤接続防止コネクタの存続に関する要望」が厚生労働省に提出されたため、本学会も学術的な観点からさらに調査していくことになった。

### P 004：新ハンドブック作成プロジェクト（佐々木副理事長・理事長代行）

・「日本臨床栄養代謝学会 JSPEN テキストブック」の発刊について

本来2021年2月の学術集会時に発売を目指していたが、内容確認に時間を要したため2021年4月1日に完成、2021年4月1日発刊予定で現在最終作業に入っていることを報告された。

### P 005：新医師・歯科医師セミナープロジェクト（福島理事）

・2020年度活動報告について

TNT研修会が2020年で終了となり、新たに医師の10時間研修(セミナー)の立ち上げのため、医師・歯科医師セミナーワーキンググループと共同で新セミナーのプログラムを作成した。新テキスト(監修:福島 亮治)および新講義については、第57回日本外科代謝栄養学会学術集会のご協力を得て、NST医師教育セミナー(オンラインセミナー)にて開催された。

### P 006：GLIM2プロジェクト（吉田理事）

・2020年度活動報告について

2018年に世界規模での低栄養の診断基準 GLIM ができたが、今後地域差がある BMI と評価法をどの分野を扱うかを、引き続き本プロジェクトで検証し、GLIM2 作成のための情報収集の準備を進める。

**P 008 : 在宅栄養推進プロジェクト (鈴木理事)**

- ・2020 年度活動報告について

現在、在宅静脈栄養管理、経腸栄養管理に関する代表的なエビデンスが本邦に存在しないため、本学会にて在宅での栄養管理法の見直しを実施し、その有効性と経済性を再評価し、さらに実際の管理法の合理化を目指す。

**P 009 : COVID-19 対策プロジェクト (佐々木理事)**

- ・2020 年度活動報告について

世界中から発信されている最新の情報とこれまでに集積してきた代謝栄養学的知見から COVID-19 に対する治療と予防に関する栄養学的アプローチについて本学会から提言を出した。

**P 010 : オンラインセミナー構築プロジェクト (鍋谷理事)**

- ・2020 年度活動報告について

来年以後に複数年使用可能な「NST 専門療法士受験必須セミナー」のテキストならびにオンライン講義ビデオの作成と運用を検討することを目的とし制作を進めている。

**VII. 理事選挙結果報告**

佐々木副理事長・理事長代行より、理事選挙結果について報告された。2020 年 11 月告示、代議員 255 名に対して 2021 年 1 月 18 日(月)に理事選挙書類を発送し、2 月 5 日(金)の消印有効を期日として、理事選挙を実施した。2 月 10 日に選挙管理委員会を学会事務局会議室で開催し開票作業を行い、有効数 216 票、無効数 16 票、投票総数 232 票であったことが報告された。

■理事選挙当選者 11 名 (理事立候補届出順・敬称略)

- ・任期 2 年 2 期：理事選挙当選者 10 名：山中英治、三原千恵、比企直樹、高増哲也、石井良昌  
鍋谷圭宏、犬飼道雄、斎藤恵子、千葉正博、森みさ子
- ・任期 2 年 1 期：理事選挙当選者 1 名：中瀬 一

**VIII. 理事予定者会議における新理事長・新副理事長の選出報告**

土岐監事の立ち会いの下、2021 年度および 2022 年度の理事による理事長の選挙が行われた。投票の結果、理事長予定者に比企直樹理事予定者が選出され、また、理事長予定者の指名により副理事長に福島亮治理事が選ばれ、理事予定者会議においても異議なく確認された。以上について本定時社員総会で報告され、続いて、比企直樹理事長予定者、福島亮治副理事長予定者より着任の挨拶がなされた。

**IX. 選挙理事の選任**

定款第 16 条および定款施行細則第 17 条により、改選選出された以下 11 名の選出理事の選任について、全会一致で承認された。

石井良昌、犬飼道雄、斎藤恵子、高増哲也、千葉正博、中瀬 一、鍋谷圭宏、比企直樹、三原千恵、森みさ子、山中英治 (五十音順・敬称略)

## X. 信任理事の選任

定款第 16 条および定款施行細則第 16 条により、非改選の信任理事 12 名の再任について、全会一致で承認された。

飯島正平、遠藤陽子、小谷穰治、小山 諭、佐々木雅也、清水孝宏、鈴木 裕、祖父江和哉、福島亮治、丸山道生、室井延之、鷺澤尚宏（五十音順・敬称略）

## XI. 推薦理事の選任

定款第 16 条および定款施行細則第 18 条により、先ほど開催された理事予定者会議にて、指名された以下 3 名の推薦理事の選任について、全会一致で承認された。

大石英人、尾花和子、名徳倫明（五十音順・敬称略）

## XII. 監事の選任

定款第 16 条および定款施行細則第 19 条により、以下 3 名の監事の選任が全会一致で承認された。倉田なおみ、土岐祐一郎（任期 4 年）、花崎和弘（比企監事の後任として残任期 2 年）

（五十音順・敬称略）

以上の改選手続きを経て、新理事会（理事・監事）が決定された。

監 事 倉田なおみ、田妻 進、土岐祐一郎、花崎和弘

理 事 比企直樹（理事長予定者）、福島亮治（副理事長予定者）、飯島正平、石井良昌、犬飼道雄、遠藤陽子、大石英人、尾花和子、小谷穰治、小山 諭、斎藤恵子、佐々木雅也、清水孝宏、鈴木 裕、祖父江和哉、高増哲也、千葉正博、中瀬 一、鍋谷圭宏、丸山道生、三原千恵、名徳倫明、室井延之、森 みさ子、山中英治、鷺澤尚宏（理事長予定者および副理事長予定者以外は五十音順・敬称略）

## XIII. 第 39 回学術集會会長選出

第 39 回（次々々回）学術集會会長に、鷺澤理事が立候補され、全会一致で承認された。会期は、2024 年 2 月 29 日（木）～3 月 1 日（金）にてパシフィコ横浜で開催することが報告された。

## XIV. 第 36 回学術集會会長挨拶

鍋谷会長より会期変更に伴うお詫びと日程変更承認協力に対し、役員各位に謝辞が述べられた。COVID-19 拡大の影響を受けて、第 36 回学術集會会期を 2021 年 7 月 21 日～22 日に延期し、ハイブリット形式で神戸ポートピアホテルにて開催を進めていることが報告された。

## XV. 第 37 回（次回）学術集會会長挨拶

第 37 回（次回）学術集會会長の飯島理事より、COVID-19 やインフルエンザなどの感染拡大時期である例年 2 月開催のリスクと第 36 回学術集會の 7 月延期に伴う時間的余裕を確保するため、会期を 2022 年 5 月 31 日（火）～6 月 1 日（水）に変更し、ハイブリッド形式でパシフィコ横浜にて開催することが報告された。

## XVI. 第 38 回（次々回）学術集會会長挨拶

第 38 回（次々回）学術集會小谷会長より、会期：2023 年 2 月 16 日（木）～17 日（金）として神戸国際会議場・国際展示場・ポートピアホテルにて開催準備を進めていることが報告された。

## XVII. 新理事長挨拶

比企直樹新理事長より挨拶が述べられた。2万人以上が所属する世界最大の栄養関連学会として学会員が学術研究団体としての初心に立ち返り学問や研究に集中できる環境を作ることに精進したいとの所信表明が述べられた。

## XVIII. 名誉会員・特別会員推戴 表彰

COVID-19 対策のため名誉会員・特別会員推戴式は中止とし、後日、推戴状と記念品をお送りした。

名誉会員 梶谷伸顕（独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター）

特別会員 阿部浩子（田無病院）

安藤亮一（清湘会記念病院）

川上祐子（中国短期大学）

小西敏郎（東京医療保健大学）

坂本八千代（くらしき作陽大学）

土屋 誉（仙台市医療センター仙台オープン病院）

外山健二（奈良女子大学）

矢永勝彦（国際医療福祉大学大学院）

和佐勝史（滋慶医療科学大学院大学）

（推戴者五十音順・敬称略）

## XIX. 各 AWARD 表彰

2021年7月22日開催の2021年度総会・学術評議員会にて表彰式を執り行うことが案内された。

### ○JSPEN スカラーシップ賞 2020 表彰

授与者名：田中明紀子（和歌山県立医科大学附属病院 病態栄養治療部）

研究課題：肥満患者における減量過程による味覚変化に対する前向きコホート研究

### ○フェロウシップ賞 2020 表彰

受賞者：岸 宗佑先生（イムス札幌消化器中央総合病院 消化器内科 VAD センター長）

演題名：内頸静脈穿刺および CV ポート手術の合併症予防のための正しい頸部解剖の理解と新たな穿刺経路の探索について

以 上

2021年2月28日（日）